

『赤き死の舞踏』は、法村友井バレエ団1956年上演のオリジナル作品を当時の音楽を元に、新演出・新振付でお届けします!

赤き死の舞踏

<作曲>戸田 邦雄 <振付>篠原 聖一

法村 珠里 (赤死病の精)

法村 圭緒 (プロスペロ公)

エドガー・アラン・ポー原作“赤き死の仮面”のバレエ化である。これは単なるスリルと耽美の世界を皮相的に描いたものだけでなく、中世期におけるヨーロッパの貴族社会と民衆との対立、その底を流れるヒューマニズムを原作からも感じられる。舞台表現として原作に忠実である。

<原作より>

赤死病が久しく国々を荒していた。これほどの命とりで恐ろしい疫病の例は今までになかった。血が! 血の赤さが!! 恐怖がその化身であり、その極印であった。恐ろしい苦痛が起り、突然めまいがし、続いて毛孔から夥しい血がふき出して死ぬのであった。この死病にとりつかれた者の、顔面に現われる真紅の斑点は、この疫病の呪詛であり、そして死に至るまでの全過程は僅か半時間の出来事であった。

10 / 15 (SUN)
2017年

開演 18:30 開場 17:30(予定)

フェスティバルホール

<チケット料金>

BOX席 ¥11,000

S席 ¥8,500

A席 ¥7,500

B席 ¥6,500

※3歳以上は入場券が必要
3歳未満は入場不可

一般発売 7月20日(木) 10:00~

<芸術監督/演出> 法村 牧緒

<指揮> 江原 功

<演奏> 関西フィルハーモニー管弦楽団

のどかな田舎にある農村に、行進ラッパと共に騎兵隊がやって来てユニークな騒動が繰り広げられます!

騎兵隊の休息

<作曲>アルムス・ヘイマー
<原振付>マリウス・プティパ



中内 綾美 (テレーザ) 中尾 早織 (マリア)

今井 大輔 (ピョートル) 大野 晃弘 (連隊長)

未来へ

<振付>法村 圭緒

過去から未来へ、80周年の祝典に捧げる!

- ◆主催：一般社団法人法村友井バレエ団
- ◆助成：文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
- ◆協力：フェスティバルホール



<公演に関するお問合せ> 法村友井バレエ団 ☎ 06-6771-6475 <http://www.homuratomoi.com/>

<チケットに関するお問合せ> フェスティバルホール ☎ 06-6231-2221 (10:00~18:00)